様式 3-2

公　開　文　書

研究課題名 （研究番号 749）	ロボット支援下大腸手術の安全な導入と術式最適化、若手外科医教育に関する検討
当院の研究 責任者（所属）	日吉　幸晴 （熊本市民病院　消化器外科）
他の研究機関 および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	近年、大腸癌に対するロボット支援下手術は普及していますが、新規導入施設においては、安全性を担保しながら手術手技を定型化・効率化するとともに、次世代術者を育成する体制の構築が重要です。当院では 2026 年 4 月よりロボット支援下大腸癌手術を導入し、症例に応じて通常のロボット手術に加え、fusion surgery および hybrid surgery をそれぞれ異なる手技として取り入れています。また、指導医による執刀から若手外科医による部分執刀、主術者への段階的移行に取り組んでいます。本研究では、当院における導入初期症例の周術期成績を後方視的に検討し、手術の安全性、症例経験に伴う手術時間等の推移、術式の工夫および若手外科医への術者移行の実施状況を明らかにします。これにより、新規導入施設における安全かつ効率的なロボット支援下大腸癌手術の導入および教育体制の構築に資する知見を得ることを目的とします。
調査データ 該当期間	西暦 2026 年 4 月 1 日　から　西暦 2030 年 3 月 31 日まで
研究の方法	本研究は、既存の診療情報を用いる単施設の観察研究です。当院で原発性大腸癌に対してロボット支援下手術を施行した患者の臨床情報および手術情報を収集し、周術期成

	績、手術時間等の推移、術式の工夫および術者移行について検討します。
個人情報の取扱い	匿名化されているもののうち、その記述単体で特定の研究対象者を直ちに判別できる記述等を全部取り除くような加工がなされているものを使用します。
本研究の資金源（利益相反）	なし
お問い合わせ先	熊本市民病院　消化器外科　部長　日吉幸晴 Tel:096-365-1711
備　考	